

後記

アメリカから送って頂いた秋山ちえ子氏の幼稚園訪問記は、偽わらない印象をそのままにうつし出されて、誠に興味深い。これは米国の幼稚園を実際に見る機会を持った人の恐らく誰しもが抱いた感想であろうと思う。よく要を得てその印象をうつし出されたことに感謝したい。

だが何故そういう印象を与えられねばならないのだろうか。日本の幼稚園界に身をおくものよく考えねばならない問題がここらにあるのではなからうか。

本誌で長い間おなじみの平井信義氏はドイツにあつて、欧州の幼児、幼稚園の近況を送って下さっている。氏の鋭くユーモアに富んだ眼によつて、これから先どんなことが繰られてくるか期待している。

本誌の戦前よりの古い読者はよく御承知のことであろうが、「童謡……」を寄せて頂いた葛原しげる氏は古い誌友である。広く童謡を通じて氏を承知しておられる方も多いことだろう。十数年の霜月を経て後に再び健筆を寄せられたのは嬉しいことである。

本号より「一年保育と二年保育に関する諸問題」がいろいろの方から、いろいろの角度より論ぜられる予定である。カリキュラムの上に、指導の上に、組織編成上等実質的な問題が多くあることであろう。読者の意見も寄せられるならば興味深いことと思う。

「幼児の智能の研究」は智能検査を主体たる研究である。近來智能検査が幼稚園でも盛んになつてゐることは、幼児の理解を深めるといふ意味ならば喜ばしいことであるが、智能検査の結果によつて或いは一喜一憂し、或いは勉強の励みのためにするといふようなことがあるなら、大きな危険を伴なつてゐる。智能検査は幼児の理解の上に大いに有益である。だが教育的に使用するのには尚多くの問題がある。例えば、知能指数の適切な理解なしに親に知能指数を知らせるとしたら、それはどういふ効果をひき起すことになるだろうか。等々。村山氏の広汎な調査と研究によつて、智能検査それ自身に関する適切な理解が得られることを希望している。

幼児の教育 第五十五巻 第三号

定価金五十円

昭和三十一年二月二十五日印刷

昭和三十一年三月 一 日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所

日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所

凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所

株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所  
フレーベル館にお願い致します。